

滅びの谷を望みの門に

ホセア書 2 章

その所でわたしは彼女にそのぶどう畑を与え、アコルの谷を望みの門として与える。その所で彼女は若かった日のように、エジプトの国からのぼつて来た時のように、答えるであろう。(15)

主の命令によつてホセアが妻として迎えた淫婦ゴメルは、淫行をやめることができず、恋人たちを慕つて夫ホセアのもとを出て行きます。

この姿は、エジプトを出たイスラエルの民が荒野において神の民とされたにもかかわらず、カナンの地に入ると主を捨ててバアル礼拝に傾いて行つたことを表しています。もはや弁解の余地など全くないゴメルですが、彼女は恋人たちが自分に寄りつかなくなると、一転して夫ホセアのもとに帰つてきました。ホセアの苦しみはどれほどだつたでしょう。しかしそのとき、ホセアは主の声を聞いたのです。「アコルの谷を望みの門として与える」と。アコルの谷とは、イスラエルが約束の地に入つて行つたとき、神の命令に背いたアカン一族が滅ぼされた谷の名前です(ヨシヤ七章)。あの滅びの谷アコルを希望の門に変えてくださると主は言われるのです。滅ぼされても仕方のない者たちをなおも憐れみ、神の民として何とか生かそうとされる主の熱烈な思いがほとばしり出ています。罪人たちが滅ぼされることなく救い出される唯一の望みは、主の変わるこのない真実な愛にあるのです。

幾たびも主のもとを離れてしまつたたちですが、向きを変えて立ち帰るとき、主は喜んで迎えてくださいます。これほどまでの主の愛に、頭を垂れるばかりです。